

宮城教育大学

教職大学院案内

2023

大学院教育学研究科 — 専門職学位課程 — 高度教職実践専攻

— 理論と実践の融合を実現 —



MIYAGI UNIVERSITY OF EDUCATION

Message

学長メッセージ

Contents

- 2 学長メッセージ
- 3 宮城教育大学教職大学院の“強み”
- 4 ディプロマポリシー
- 5 カリキュラムポリシー
アドミッションポリシー
- 6 教育課程
- 7 高度教職実践専攻科目
- 8 履修モデル
- 11 履修スケジュール
授業日の院生の一日
- 12 スタッフ紹介
- 15 Q&A
- 16 指導体制
- 17 学校における実習
- 18 研究活動
- 20 在学院生・修了生
メッセージ
- 21 学費・奨学金
- 22 令和3年度修了生の
就職状況
入試実績
- 23 教員採用試験対策
各種制度



教育を取り巻く環境は日々変化しており、学校等の教育現場における問題も多岐にわたって複雑化しています。教師に対する期待も大きく、教科専門力、児童・生徒理解力、学級経営力、多様さを認める姿勢、しょうがいを抱える子どもへの配慮など、様々な問題に対する的確な対応が求められています。

宮城教育大学は、学部段階や学校の教育現場において培われた教員としての知識・技能と実践力を基盤に、教職としてのより高度な専門性を身につけ、教育の今日的課題の解決を図る人材養成を強化する目的から、これまでの大学院（修士課程、教職大学院）を改組・再編し、令和3年度から、新しい大学院（教職大学院）がスタートしました。

この新しい教職大学院の特徴としては、

①「理論と実践の往還」を基本とする実態の「把握」、「適応」、「分析」、「開発」の段階的の学修が進められ、教育現場における課題解決能力の育成が図られること。研究者教員と実務家教員が個々の院生に対応した指導教員組織を編成するため、理論と実践の往還の実質化が図られること。

②大学院生として、学部卒業生以外に現職教員が入学するため、経験知の異なる院生同士の交流がさかに行われること。

③特定の専門の深化が図られるだけでなく、教育現場の総合的な諸問題（例えば、いじめ、不登校、防災、ICT、インクルーシブ教育等）にも精通でき、広範な深い学びが可能なこと。

の3点が挙げられます。まさに、「得意を広げ不得意を無くす」という教職者としての探求を重視しながら教育の高みに向かって歩みを緩めない大学院を目指しています。

宮城教育大学は、教職員と学生が共に考え、共に学び、共に悩み、共に進み、共に創造する大学で、一人ひとりの院生に真摯に向き合う姿勢を大切にします。

宮城教育大学教職大学院の“強み”

① 現職教員学生と学部卒業生等学生が共に学び、高め合っています

本学の教職大学院では、学部を卒業して進学する学生(ストレートマスター)と、実際に現場で教員として活躍している学生(現職教員学生)と一緒に学んでいます。

ストレートマスターにとっては、学校現場での経験が豊富な現職教員学生と共に学ぶことにより、授業実践や指導案の作成、学級づくり等について気軽に相談することができます。

現職教員学生にとっても、ストレートマスターの新鮮な視点に刺激を受け、新たな発見や気づきを得ることができます。

ストレートマスターと現職教員学生がWin-Winの関係で、共に学び高め合える環境が、本学の教職大学院にはあります。

② 実習の機会が充実しています

ストレートマスターは、1年次から本学の附属学校園や「学校教育創造・研修校」において定期的・継続的な実習を行います。長期的視野に立った実習の機会を確保することにより学校課題の探究から解決までのサイクルを体験し、2年次において教育実践のデザイン、指導力の深化を図っていきます。

現職教員学生は、1年次において、これまでの指導経験・実績を踏まえた自身の教育実践上の課題を、勤務校以外での実習等を通して明確にし、2年次では、自らの勤務校等でその課題の解明と解決に根差した研究を大学と実習校を行き来しながら進めていきます。

ストレートマスター、現職教員学生ともに大学キャンパスでの講義・演習等による学修と連動した実習機会が確保されており、「把握」→「適応」→「分析」→「開発」→「把握」→…の一貫したサイクルは、まさに本学の掲げる「理論と実践の往還」を体現したカリキュラム構成といえます。

③ 各教科・領域における専門スタッフが充実しています

本学の教職大学院には、教職、教科・領域における指導方法、各教科の教材解釈や開発等の研究、学校現場での豊富な指導経験や学校管理職としての経験など、学校教育に関する多様な専門的知識・知見を持った専任教員がそろっています。特に、教科専門に精通した教員が専任としてそろっているのは東北唯一の教員養成大学である本学ならではの強みです。

さらに、教職大学院専任以外の学部所属する教員(兼任教員)も、教職大学院の授業や教員ユニット(16ページを参照)へ参画することにより、より多面的・多角的な指導・助言を受けながら学修を積み重ねていくことができます。

教職大学院における三つのポリシー

1 学位授与方針（ディプロマポリシー）

(1) 養成したい教員像

宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)では、学部段階や学校教育現場において培われた教員としての知識・技能と実践力を基盤に、さらに教職としての高度な専門性を身につけ、教育現場における今日的課題の解決に向けた、状況分析能力、分析結果を実践につなげる実行力を備えた教員、ひいては、学校や地域で中核的・指導的な役割を果たすスクールリーダーまたはその候補になり得る人材を養成します。この方針のもとに、以下の3つのプログラムを編成します。「2年以上」在籍のうえ、所定の単位を修得し、総合的な教師力の高度化の達成に関する評価を受け、以下の資質能力を身につけたと判断された者に対して、教職修士(専門職)の学位を授与します。

(2) 各履修プログラムのねらい

◎ 教科探究プログラム

各教科の背景となる学問知識を踏まえて「教科内容学」の研究方法を習得し、高度な教材研究力と教材開発力を身につけるとともに、子どもの認識や発達の実態に即して、授業を不断に改善していくことができる教科指導力を高めることにより、現職教員は、学習指導要領の目標等達成のため、学校と社会とのつながりを踏まえたカリキュラムマネジメント、地域の物的・人的資源やICTを活用した授業展開・授業改善を高度に実践するとともに、校内における中核的な役割を果たす教員として若手教員への助言ができるスクールリーダーとなる。また、学部卒業生等は、学部卒業の段階より更に学問の発展や社会状況の変化に応じてその水準を高め、高度な授業展開や授業改善を実践できる教員となる。

現職教員

- 教科等に関する最新の高度な専門的知識・技能を有している
- 学習指導要領の目標等を達成するための最新の高度な教育の方法・技術を身につけている
- 社会に開かれた教育課程の視点を踏まえた教材研究・教材開発について助言ができる
- カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業展開・授業改善を実践し、教育課程の編成への助言ができる
- 授業づくり等に関して若手教員への助言ができる

学部卒業生等

- 教科等に関する高度専門職としての知識・技能を有している
- 学習指導要領の目標等を達成するための高度専門職としての教育の方法・技術を身につけている
- 社会に開かれた教育課程の視点を踏まえた教材研究・教材開発ができる
- カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業展開・授業改善の実践ができる

◎ 特別支援・子ども支援プログラム

変化が激しい社会で学習や発達に困難を抱える子どもに対応するために、特別な教育ニーズを抱えた子どものケーススタディによる発達・学習支援法を開発できる力や、ICTを駆使した教育を開発しながら子どもを支援できる力を身につけることにより、現職教員は、多面的・総合的に子どもたち一人一人の教育的ニーズを捉えて常期的確な支援が行えるとともに、校内における中核的な役割を果たす教員として若手教員への助言ができるスクールリーダーとなる。また、学部卒業生等は、多面的・総合的に理解する視点を有し、子どもたち一人一人の教育的ニーズを理解して的確に支援が行える教員となる。

現職教員

- 教育法規の知識・ICT活用等の技術を有し、特別な支援を必要とする子どもへの個別的教育支援計画・個別の指導計画を関係機関と連携して作成する際に助言ができる
- 教育相談やカウンセリングの最新の知識・技法を身につけているとともに、若手教員への助言ができる
- 子どもの成長の段階等に応じた心理に関する最新の高度な専門的知識を有している
- 子どもを多面的・総合的に理解する視点をもち、若手教員への助言ができる

学部卒業生等

- 教育法規の知識・ICT活用等の技術を有し、特別な支援を必要とする子どもへの個別的教育支援計画・個別の指導計画を関係機関と連携して作成し、実践できる
- 教育相談やカウンセリングの高度専門職としての基礎的な知識・技法を身につけている
- 子どもの成長の段階等に応じた心理に関する高度専門職としての知識を有している
- 子どもを多面的・総合的に理解する高度専門職としての視点を有している

◎ 学校課題解決マネジメントプログラム

学校という組織をマネジメントしていく「学校を支える力」として、地域の教育ニーズを踏まえつつ学校が直面している課題を発見し、教職員間で共有し、協働して解決できるマネジメント力を身につけることにより、学校運営及び教育活動の中核的な役割を果たすとともに、管理職・リーダーとしての資質能力を有する教員となる。

現職教員

- 学校運営上自らが担うべき役割を全校的な視点から適切かつ効率的に果たすことができる
- 他の教職員とのコミュニケーションを保ち、協働に向けた協調性を持つとともに、若手教員の意見等の把握・調整ができる
- いじめや不登校の問題を理解する姿勢を学校全体で常に共有し、組織的対応と体制整備を支援できる
- 地域および保護者や学校外の専門家および関係機関との良好なコミュニケーションを保ち、信頼関係のもと、連携・協働した教育活動を主導し、若手教員への助言ができる
- 教職員間の協働、保護者や地域社会・関係機関との信頼関係の下での連携により、子どもの成長を支援することができる

2 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

(1) 教育課程の全体構成

宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)では、多様化・複雑化する子どもの学習・発達のニーズに応えるとともに様々な教育課題の解決を目指し、教科専門(特別支援領域を含む)、教科教育専門、教職専門の密接な連携を通して、スクールリーダーおよびその候補者としてふさわしい総合的な教師力を養成するためのカリキュラムを編成しています。

カリキュラムは、「専門高度化基盤科目」、「専門高度化探究科目」、「専門高度化深化科目」の3つの科目群から構成されており、共通専門科目としての「専門高度化基盤科目」での学修を基盤としながら、その上に「専門高度化探究科目」においてそれぞれのプログラムに対応した特色ある授業科目を履修します。また、その学修の過程においては、常に「理論と実践との往還」を基本とする「把握」、「適応」、「分析」、「開発」の段階的学修を進め、それらの学修と併行しながら「専門高度化深化科目」を履修します。

(2) 各授業科目群の構成と指導体制

● 専門高度化基盤科目(24単位)

「教職共通5領域(①教育課程、②教科指導、③生徒指導・教育相談、④学級・学校経営、⑤学校教育・教職)」(20単位)と「学校における実習(基礎実践)」(4単位*)で構成されます。

本教職大学院で体系的に育成すべき資質としての知識・技能を修得するとともに、学校現場の中核的・指導的な教員として、所属する学校のみならず広く地域全体の教育力の組織的な改善・充実に活用できる資質の育成を目指します。

※現職教員については、審査により履修が免除される場合があります。

● 専門高度化探究科目(8単位以上)

選択したプログラムの趣旨・目的等に対応する講義・演習・実習で科目群を構成しています。入学時に設定する「実践研究テーマ(達成目標)」に関連する科目を履修することにより、知識・技能と実践力の質的向上を目指します。

● 専門高度化深化科目(14単位)

教職専門と教科専門・教科教育専門、理論と実践の「架橋」となる、演習を中心とした「実践的指導力融合科目」(8単位)と「学校における実習(臨床実践)」(6単位)で構成しています。

全プログラム共通の必修科目である「専門高度化基盤科目」を履修したうえで、各プログラムに対応した特色を持つ「専門高度化探究科目」と「専門高度化深化科目」を組み合わせることで履修することにより「理論と実践の往還」を積み重ねて、教職としての総合的な力量形成を目指します。

院生各自のニーズに対応する指導体制として、院生一人ひとりを複数の教員でサポートする「教員ユニット制」を設けます。院生はそれぞれのテーマに即して、科目履修系として設けられた3つのプログラムのいずれかを履修し、修了に必要な単位を修得します。

3 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

(1) 本教職大学院の目的

宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)は、多様化・複雑化する子どもの学習・発達のニーズに応え得る高度な専門性を有する幼稚園・小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員を養成することを目的としています。また、地域の教育課題と向き合い、学校や地域における教育の充実・改善に中核的・指導的な役割を果たす優れた教員の養成を目指しています。

(2) 求める学生像

現職教員

学校教育現場での経験を基に、直面する複雑・多様な諸問題に対して、深い関心と明確な課題意識を有するとともに、その解決のための方策の探究に必要な資質と能力、強い意欲、広い視野に立った実行力を有している者

学部卒業生等

学習指導・生徒指導に関する基礎的な知識と技能を備え、教員としての基本的な力量を有するとともに、高度な専門性の修得に向けた意欲と課題探究能力とを有している者で、かつ本教職大学院修了後、教職に就くことを強く志向する者

(3) 入学者選抜の基本方針

現職教員

志願者は、現職教員として勤務してきた経験に基づく問題意識や、これまでに行ってきた実践・研究の成果、入学後の研究計画を「学修・研究計画レポート」としてまとめ、出願時に提出します。入学試験は、出願書類に基づく口述試験により行い、実践に基づく問題意識が十分に形成されているかどうか、問題解決に強い意欲を持っているかどうか、研究計画が具体的で実行可能なものかどうか等を評価します。

学部卒業生等

入学試験は、教員になるための基本的な学力と学校教育や教職に関する問題意識を評価するための論述試験、および「学修・研究計画レポート」を含む出願書類に基づく口述試験により行います。口述試験では、本教職大学院での学修や研究に対する意欲、学修・研究テーマに対する問題意識、教員への志向性が十分であるかどうか等を評価します。

「理論と実践の融合を実現」＝「専門性の深化」

～高度専門職業人としての教師の専門性の深化(高度化)の実現～

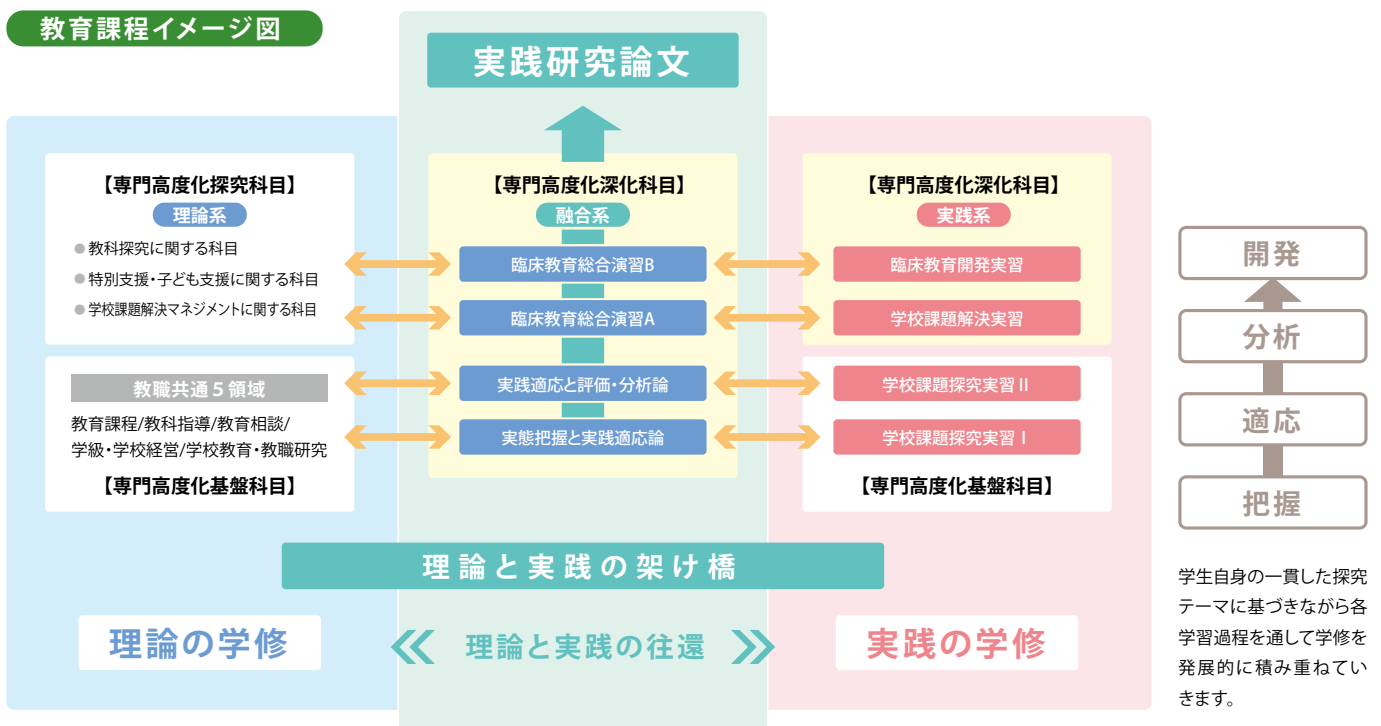
院生それぞれが、一貫した探究テーマを設定

「理論と実践との往還」を基本とする「把握」、「適応」、「分析」、「開発」の段階的学修

充実のカリキュラム

- カリキュラムは、3つの科目群「専門高度化基盤科目」「専門高度化探究科目」「専門高度化深化科目」で構成します。
- それぞれの院生が入学時に設定する「実践研究テーマ」の探究を、3つの履修プログラム(教科探究プログラム、特別支援・子ども支援プログラム、学校課題解決マネジメントプログラム)で対応。「専門高度化深化科目」は、院生の探究テーマに応じてクラス分けを行います。
- 理論の学修では、「専門高度化基盤科目」の教職共通5領域の学修を基盤に、その上に「専門高度化探究科目(選択科目)」において、3つの履修プログラムに対応した特色ある授業科目を履修します。
- 実践の学修では、「専門高度化基盤科目」と「専門高度化深化科目」の実習系科目を系統的・発展的に履修します。
- そして「理論と実践の往還」の実質化、その架け橋となる融合系科目において、学生の一貫した探究テーマに基づきながら「把握」「適応」「分析」「開発」の各学習過程を通して、学修を発展的に積み重ねていき、実践研究論文の作成へとつなげていきます。
- 院生が自己の中で「理論と実践の融合」を実現化させていくことを「専門性の深化」ととらえ、最終的に高度専門職業人としての教師の専門性の深化(高度化)を実現していきます。

教育課程イメージ図



高度教職実践専攻科目

授業科目名		単位	対象年次	専修免許状の対応	
共通5領域科目	教育課程の編成・実施に関する領域	学びの地図と資質・能力	2	1	幼・小・中・高
		カリキュラムマネジメントと教師の役割	2	1	幼・小・中・高
		社会に開かれた教育課程と授業開発	2	1	幼・小・中・高
	教科の実践的指導に関する領域	授業設計・教科内容構成論(基礎)	2	1	小・中・高
		授業設計・教科内容構成論(応用)	2	1	小・中・高
		教育における臨床の学の創造	2	1	幼・小・中・高
	生徒指導・教育相談に関する領域	子どもの生活と行動・実態把握論	2	1	幼・小・中・高
		子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援)	2	1	特支(5領域)
		子どもの生活と行動・実態分析論	2	1	幼・小・中・高
		子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援)	2	1	特支(5領域)
		特別支援教育と学校・学級経営	2	1	幼・小・中・高
	学級経営・学校経営に関する領域	特別支援教育と学校・学級経営(特別支援)	2	1	特支(5領域)
		安心・安全な学級・学校づくり(基礎)	2	1	幼・小・中・高
	学校教育と教員のあり方に関する領域	安心・安全な学級・学校づくり(応用)	2	1	幼・小・中・高
		地域協働と学校づくり	2	1	幼・小・中・高
	学校における実習(基礎実践)	教師の成長と子どもの発達	2	1	幼・小・中・高
		学校課題探究実習I	2	1	幼・小・中・高
		学校課題探究実習II	2	1	幼・小・中・高
教科探究科目	教育における臨床の知	2	1・2	幼・小・中・高	
	教育実践記録と授業分析論	2	1・2	幼・小・中・高	
	社会変動と学力論	2	1・2	幼・小・中・高	
	クロスカリキュラムの学習と評価	2	1・2	幼・小・中・高	
	授業検証と教科内容開発(基礎・国語科)	2	1・2	小・中(国)・高(国)	
	授業検証と教科内容開発(応用・国語科)	2	1・2	小・中(国)・高(国)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・社会科)	2	1・2	小・中(社)・高(地・公)	
	授業検証と教科内容開発(応用・社会科)	2	1・2	小・中(社)・高(地・公)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・算数・数学科)A	2	1・2	小	
	授業検証と教科内容開発(基礎・算数・数学科)B	2	1・2	中(数)・高(数)	
	授業検証と教科内容開発(応用・算数・数学科)A	2	1・2	小	
	授業検証と教科内容開発(応用・算数・数学科)B	2	1・2	中(数)・高(数)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・理科)A	2	1・2	小・中(理)・高(理)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・理科)B	2	1・2	小・中(理)・高(理)	
	授業検証と教科内容開発(応用・理科)A	2	1・2	小・中(理)・高(理)	
	授業検証と教科内容開発(応用・理科)B	2	1・2	小・中(理)・高(理)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・英語科)	2	1・2	小・中(英)・高(英)	
	授業検証と教科内容開発(応用・英語科)	2	1・2	小・中(英)・高(英)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・技術科)	2	1・2	中(技)	
	授業検証と教科内容開発(応用・技術科)	2	1・2	中(技)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・家庭科)	2	1・2	小・中(家)・高(家)	
	授業検証と教科内容開発(応用・家庭科)	2	1・2	小・中(家)・高(家)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・音楽科)	2	1・2	小・中(音)・高(音)	
	授業検証と教科内容開発(応用・音楽科)	2	1・2	小・中(音)・高(音)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・美術科)	2	1・2	小・中(美)・高(美)	
	授業検証と教科内容開発(応用・美術科)	2	1・2	小・中(美)・高(美)	
	授業検証と教科内容開発(基礎・保健体育科)	2	1・2	小・中(保体)・高(保体)	
	授業検証と教科内容開発(応用・保健体育科)	2	1・2	小・中(保体)・高(保体)	
	特別支援・子ども支援科目	インクルーシブ教育総論	2	1・2	特支(5領域)
		特別支援教育コーディネーター概論	2	1・2	特支(5領域)
		支援が必要な子どもと学校教育I(知的障害・自閉症スペクトラム障害等)	2	1・2	特支(5領域)
		支援が必要な子どもと学校教育II(感覚障害・運動障害・身体疾患系)	2	1・2	特支(5領域)
		不登校・学校不適応状況と学校教育	2	1・2	特支(5領域)
子どもをめぐる社会的諸問題と福祉		2	1・2	特支(5領域)	
特別支援教育とICT		2	1・2	特支(5領域)	
学校課題解決マネジメント科目	地域協働フィールドワーク論	2	1・2	幼・小・中・高	
	リーガルマインドによる学校づくり	2	1・2	幼・小・中・高	
	学校安全と防災教育	2	1・2	幼・小・中・高	
	情報リテラシーとICT	2	1・2	幼・小・中・高	
	グローバル教育課題の探究	2	1・2	幼・小・中・高	
	幼年期の教育と幼保小連携・接続	2	1・2	幼・小	
学校における実習(臨床実践)	学校課題解決実習	2	1	幼・小・中・高	
	学校課題解決実習(特別支援)	2	1	特支(5領域)	
	臨床教育開発実習	4	2	幼・小・中・高	
実践的指導力融合科目	臨床教育開発実習(特別支援)	4	2	特支(5領域)	
	実態把握と実践適応論	2	1	幼・小・中・高	
	実践適応と評価・分析論	2	1	幼・小・中・高	
	臨床教育総合演習A	2	2	幼・小・中・高	
	臨床教育総合演習A(特別支援)	2	2	特支(5領域)	
	臨床教育総合演習B	2	2	幼・小・中・高	
	臨床教育総合演習B(特別支援)	2	2	特支(5領域)	

各プログラムの履修モデル(一例)を紹介

ストレートマスター
学生

教科探究プログラムの履修モデル

国語科の教科研究を探究テーマにした履修モデル

〈教師の教科指導力に関する専門性〉

理論的な知識に関する専門性

- 教科に関する学術的な専門知識
- 教科の授業展開・指導方法に関する学術的な専門知識
- 学習成果について評価する学術的な専門知識
- 授業を振り返り、再構成していく学術的な専門知識

実践的指導力に関する専門性

- 教材を解釈し、指導計画を作成する実践的な力
- 授業を展開していく実践的な力
- 学習成果について評価する実践的な力
- 授業を振り返り、再構成していく実践的な力

○専門高度化基盤科目(共通5領域+基礎実践) 24単位以上 選択必修

		単位	計24	
共通5領域科目	教育課程	学びの地図と資質・能力		2
		カリキュラムマネジメントと教師の役割		2
		社会に開かれた教育課程と授業開発		2
教科指導	教科指導	授業設計・教科内容構成論(基礎)		2
		授業設計・教科内容構成論(応用)		2
		教育における臨床の学の創造		2
教育相談	教育相談	子どもの生活と行動・実態把握論		2
		特別支援教育と学校・学級経営		2
学級・学校経営	学級・学校経営	安心・安全な学級・学校づくり(基礎)		2
		学校教育・教職研究	2	
学校における実習(基礎実践)	学校における実習(基礎実践)	学校課題探究実習I	2	
		学校課題探究実習II	2	

○専門高度化探究科目 8単位以上 選択必修

		単位	計8	
教科探究科目	教科探究科目	社会変動と学力論		2
		クロスカリキュラムの学習と評価		2
		授業検証と教科内容開発(基礎・国語科)		2
		授業検証と教科内容開発(応用・国語科)	2	

○専門高度化深化科目 14単位 全て必修



特別支援・子ども支援プログラムの履修モデル

特別支援教育コーディネーターの役割について深く学ぶとともに、
地域の小学校等に対するセンター的機能の有効な実践を
探究テーマにした履修モデル

〈教師の特別支援・子ども支援に関する専門性〉

理論的な知識に関する専門性

- 児童・生徒理解に関する学術的な専門知識
- 教育相談・カウンセリングに関する学術的な専門知識
- 多様な教育ニーズの理解・把握に関する学術的な専門知識
- 子ども支援・特別支援に関する諸機関と連携する基盤となる学術的な専門知識
(ICT活用した連携のスキルを含む)

実践的指導力に関する専門性

- 児童・生徒理解を踏まえた実践的な指導力
- 個に応じた共感的・受容的な支援を行う実践的な力
- 特別支援・子ども支援に関わる校内・地域との連携を担う実践的な力

○専門高度化基盤科目(共通5領域) 20単位*以上 選択必修

		単位	
共通5領域科目	教育課程	学びの地図と資質・能力	2
	教科指導	社会に開かれた教育課程と授業開発	2
		授業設計・教科内容構成論(基礎)	2
	教育相談	子どもの生活と行動・実態把握論	2
		子どもの生活と行動・実態分析論 特別支援教育と学校・学級経営	2
	学級・学校経営	安心・安全な学級・学校づくり(基礎)	2
安心・安全な学級・学校づくり(応用)		2	
学校教育・教職研究	地域協働と学校づくり	2	
	教師の成長と子どもの発達	2	
			計20

※学校における実習(基礎実践)は審査により免除

○専門高度化探究科目 8単位以上 選択必修

		単位	
特別支援・子ども支援科目	インクルーシブ教育総論	2	計14
	特別支援教育コーディネーター概論	2	
	支援が必要な子どもと学校教育I (知的障害・自閉症スペクトラム障害等)	2	
	支援が必要な子どもと学校教育II (感覚障害・運動障害・身体疾患系)	2	
	不登校・学校不適応状況と学校教育 子どもをめぐる社会的諸問題と福祉	2	
	特別支援教育とICT	2	

○専門高度化深化科目 14単位 全て必修



学校課題解決マネジメントプログラムの履修モデル

地域と連携したカリキュラムマネジメントのあり方を 探究テーマにした履修モデル

〈教師の学校課題解決マネジメントに資する『学校運営』に関する専門性〉

理論的な知識に関する専門性

- 教育法及び教育制度に関する学術的な専門知識
- 学校経営及び学校組織管理運営と危機管理に関する学術的な専門知識及び方法論
- 地域や外部との連携に関する学術的な専門知識及び方法論
- 校内研修・現職教員の資質能力向上に関する学術的な専門知識及び方法論

実践的指導力に関する専門性

- 教育法・制度に関する知見の学校現場への応用力
- 学校経営に関する実践力
- 家庭・地域・外部機関との連携・協働を推進する力
- 教職員との円滑なコミュニケーション・意思疎通・信頼関係を構築する力

○専門高度化基盤科目(共通5領域) 20単位*以上 選択必修

		単位		
共通5領域科目	教育課程	学びの地図と資質・能力	2	計20
		カリキュラムマネジメントと教師の役割	2	
		社会に開かれた教育課程と授業開発	2	
	教科指導	授業設計・教科内容構成論(基礎)	2	
		授業設計・教科内容構成論(応用)	2	
	教育相談	特別支援教育と学校・学級経営	2	
	学級・学校経営	安心・安全な学級・学校づくり(基礎)	2	
		安心・安全な学級・学校づくり(応用)	2	
	学校教育・教職研究	地域協働と学校づくり	2	
		教師の成長と子どもの発達	2	

※学校における実習(基礎実践)は審査により免除

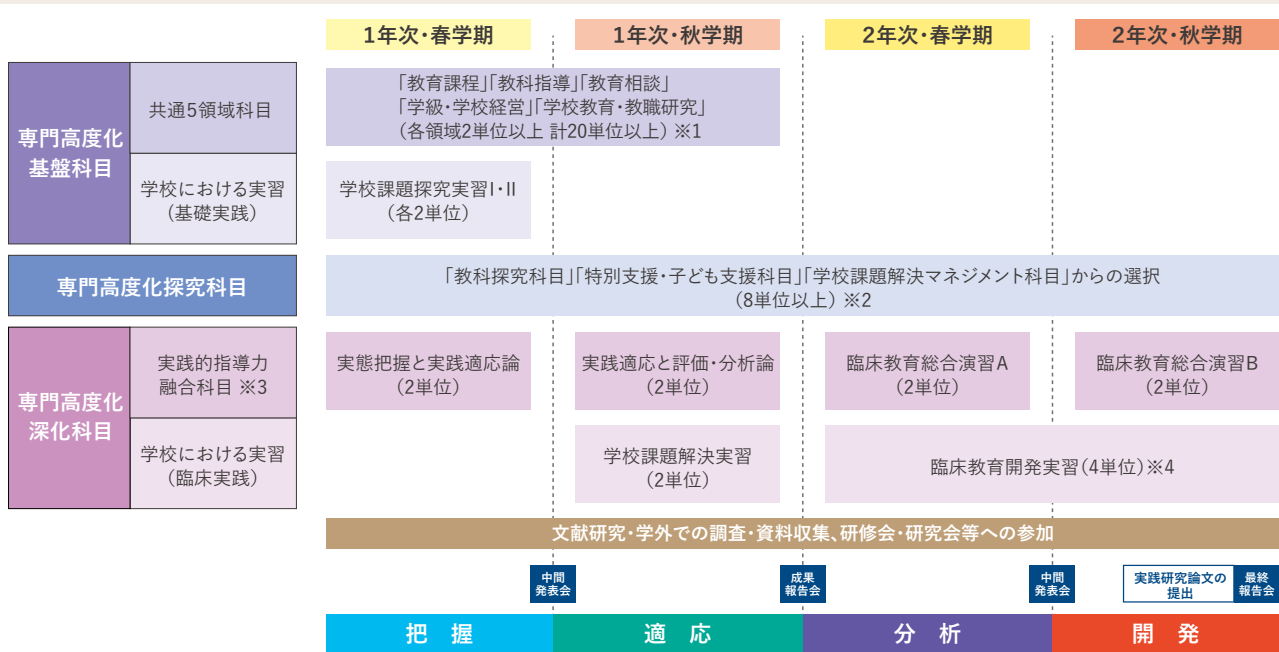
○専門高度化探究科目 8単位以上 選択必修

		単位	
学校課題解決 マネジメント 科目	地域協働フィールドワーク論	2	計8
	リーガルマインドによる学校づくり	2	
	学校安全と防災教育	2	
	グローバル教育課題の探究	2	

○専門高度化深化科目 14単位 全て必修



履修スケジュール



※1 探究テーマに即して共通5領域科目の履修パターンを選択(5領域のうち、重点的に学修するものを選択)する。
 ※2 探究テーマに即して科目を選択する。選択プログラムの科目から8単位選択の他に、他のプログラムの科目からの履修も可能。
 ※3 理論(講義)と実践を架橋する科目。院生の探究テーマに即した「教員ユニット*」を構成し指導する。
 *教員ユニット…専任教員(教職専門担当教員、教科教育担当教員、教科専門担当教員、実務家教員)及び授業担当兼担教員から編成
 ※4 2年派遣現職教員学生は行政機関等での実習を含む。 ※現職教員学生は、2年次において勤務校に復帰し、校務を行いながら教職大学院の学修を継続することができます。

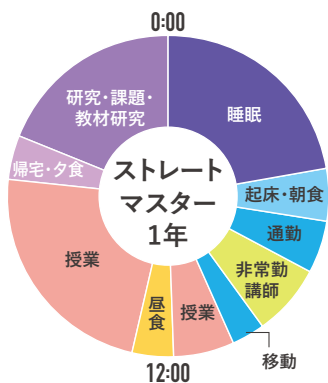
授業日の院生の一日

ストレートマスター1年次生のある1日

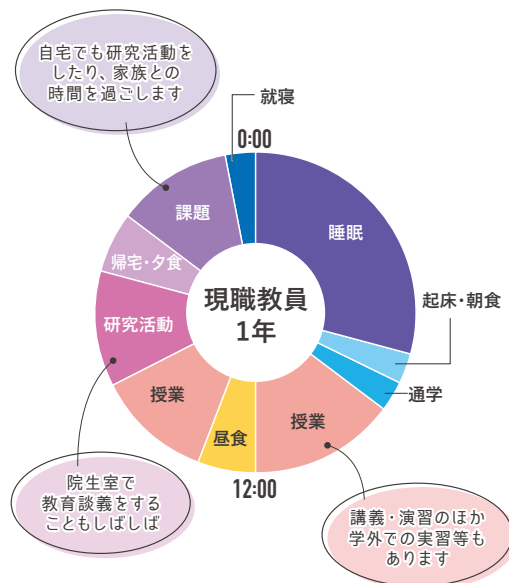


伊藤 さつき
(出身大学: 昭和女子大学)

私の大学院の時間割は、基本的に2限又は3限からだったので、その前の朝の1~2時間目に母校で非常勤講師をしていました。講義終了後や土日には、家庭教師のアルバイトも入れていた日もあります。大学院は、水曜日には実習があるので毎日が理論と実践の往還の日々でした。恐らく周りよりもかなりハードな毎日でしたが、毎日の理論と実践の往還によって、大学院の研究に生かされ、自分自身の指導力の向上にも確実に繋がっています。



現職教員1年次生のある1日



※このスケジュールは授業日のものであり、他に1週間のうち1日は学校における実習を行います。

スタッフ紹介

● 教育担当教員(専任教員)

教育担当教員(専任教員)は、教職、教科・領域における指導方法、各教科の教材解釈や開発等の研究、学校現場での豊富な指導経験や学校管理職としての経験など、高度な専門的知識・知見を持つ教員からなり、院生を全力でサポートします。



専攻長
本田 伊克 教授

専門分野
教育課程

主な研究課題
教育課程論、数学教育論、
教育社会学



植木田 潤 教授

専門分野
発達障害学

主な研究課題
発達障害学:本人、保護者、
教員の教育相談支援、
二次的障害の理解と対応



内山 哲治 教授

専門分野
物理学

主な研究課題
超伝導物理学、物理教育法
および教材の開発



久保 順也 教授

専門分野
臨床心理学

主な研究課題
児童生徒間のいじめに関
する研究、家族療法/短期
療法の学校現場における
活用



黒川 修行 教授

専門分野
学校保健・教育保健学

主な研究課題
子どもの健康と健康教育



齊藤 千映美 教授

専門分野
環境教育

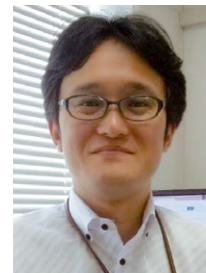
主な研究課題
環境教育、人類生態学、
行動学



菅井 裕行 教授

専門分野
コミュニケーション障害学

主な研究課題
盲ろう二重障害のある
子どもへの教育的支援、
学校コンサルテーション



鈴木 渉 教授

専門分野
英語科教育学

主な研究課題
英語教育学、
第二言語習得研究、
応用言語学



平 真木夫 教授

専門分野
認知心理学、教育心理学

主な研究課題
認知心理学
(学力論・教育評価・教育の
情報化・国際比較 ほか)



田端 健人 教授

専門分野
教育学

主な研究課題
・学力/非認知能力のデータサイエンス
・「子どもの哲学p4c」(対話型学習法)
・学校と災害:スクーラーリーダーの
マインドフレーム
・配慮を要する子どもを包括する
通常学級のあり方



出口 竜作 教授

専門分野
生物学

主な研究課題
動物発生学、細胞生物学



梨本 雄太郎 教授

専門分野
社会教育・生涯学習

主な研究課題
社会教育、成人学習、
学校と地域の連携・協働



堀田 幸義 教授

専門分野
歴史学(日本史)

主な研究課題
日本近世武家社会史、
歴史教育



本岡 愛実 教授

専門分野
教育制度・経営

主な研究課題
教育行政学、教育制度論、
学校経営論



水谷 好成 教授

専門分野
電子工学・生体工学

主な研究課題
LEDやロボット関連の科学
技術教育、生活・教育支援機
器(コミュニケーション補助
装置など)の開発、非常食作
りなどの防災関連教育ほか



吉田 剛 教授

専門分野
学校教育学・社会科教育学

主な研究課題
カリキュラム開発、
学校教育の経営と政策、
コンピテンシーと見方・考え
方ほか



吉村 敏之 教授

専門分野
教育方法学

主な研究課題
教育実践史、授業研究

オール宮城教育大学で院生を全力サポートします



渡辺 尚 教授

専門分野
理科教育学

主な研究課題
理科教育教材の開発と検討



市川 啓 准教授

専門分野
数学科教育学

主な研究課題
乗法概念領域の教授・学習



越中 康治 准教授

専門分野
発達心理学

主な研究課題
発達心理学
(社会性・道徳性の発達)



小田 隆史 准教授

専門分野
地理・環境科学

主な研究課題
防災教育、防災人材育成、
学校防災、地理学、
フィールドワーク



金田 裕子 准教授

専門分野
教育方法・教育課程

主な研究課題
教育方法、授業研究、
カリキュラム



木下 和彦 准教授

専門分野
音楽教育学・作曲

主な研究課題
創造的な音楽創作活動の方法に
関する実践的研究
ポピュラー音楽、現代音楽の教材化
ICTを活用した音楽づくりに関する
実践的研究



熊谷 亮 准教授

専門分野
学校心理学、障害児心理学

主な研究課題
発達障害児のアセスメント、
学校適応支援



香曾我部 琢 准教授

専門分野
保育学

主な研究課題
保育者の専門性、
日常における乳幼児の
認知行動・発達



佐々木 孝徳 准教授

専門分野
学級・学校経営

主な研究課題
学級・学校経営、道徳教育、
教育方法論



澤田 茂実 准教授

専門分野
学級・学校経営

主な研究課題
国語教育、道徳教育、
学級・学校経営



信太 昭伸 准教授

専門分野
学級・学校経営

主な研究課題
学級・学校経営、算数教育、
道徳教育、幼保小中連携



永井 伸幸 准教授

専門分野
視覚障害学

主な研究課題
見えにくさの把握の方法



仲谷 健太郎 准教授

専門分野
上代日本文学

主な研究課題
『万葉集』を中心に、上代日
本の韻文作品が中国文学
からどのような影響を受け
たのかを研究しています。



宮澤 孝子 准教授

専門分野
教育法、教育財政論

主な研究課題
教育財政史、
戦後教育改革、
教育条件整備論



猪股 亮文 特任教授

専門分野
学校経営、カリキュラム・マネジメント、
生活科・総合的な学習の時間、特別活動

主な研究課題
学校経営や教育行政に携わっ
た経験を足場に、グランド・デザ
インを起点とし、家庭・地域と協
働しながら子供の資質・能力を
培う学校経営について研究し
ています。



岩田 光世 特任教授

専門分野
学校経営関係・国語科教育
関係・学級経営関係 等

主な研究課題
学校経営・カリキュラムマネ
ジメント・国語科における生
活・他教科等との関連を図っ
た教材開発・国語科経営・文
学的作品に係る授業づくり等



佐藤 静 特任教授

専門分野
臨床心理学

主な研究課題
臨床心理学、
カウンセリング、心の支援、
教育相談



丸山 千佳子 特任教授

専門分野
学級・学校経営

主な研究課題
算数・数学教育、
学校経営、学力向上

スタッフ紹介

・ 授業担当兼担教員

授業担当兼担教員は、ティームティーチングの一翼として、専任教員と協働して、実習、専門性の探究、深化を図る授業を担当します。様々な分野の専門家が「教員ユニット(P16)」構成員として院生の指導に参画します。

	氏名	役職	専門分野	主な研究課題
幼児教育分野	佐藤 哲也	教授	幼児教育学	幼児教育思想史、保育実践理論
	飯島 典子	准教授	保育内容学	保育内容(人間関係)、臨床発達心理学
国語教育分野	遠藤 仁	教授	国語学	日本語の歴史
	児玉 忠	教授	国語科教育学	国語科教材論、授業論
	中地 文	教授	国文学(児童文学)	日本児童文学、特に宮沢賢治
社会科教育分野	石田 雅樹	教授	政治学	政治理論、政治哲学
	川崎 惣一	教授	哲学	近現代西洋哲学
	西城 潔	教授	地理学	自然地理学、環境地理学
	田中 良英	教授	歴史学(西洋史)	ヨーロッパ史
	松岡 尚敏	教授	社会科教育学	社会科の授業研究・教材開発
	山内 明美	准教授	社会学	社会学、地域社会学
英語教育分野	竹森 徹士	教授	英文学	イギリス小説
	リース・エイドリアン	准教授	英語コミュニケーション	英語教育学、英語コミュニケーション、第二言語学習動機づけ、コンピューター支援語学学習
数学教育分野	高橋 潔	特任教授	英語学	英語教育学、英語学(意味論・語用論・統語論)、日英対照言語学
	鎌田 博行	教授	幾何学	微分幾何学
	田谷 久雄	教授	代数学	代数体の整数論
	佐藤 得志	准教授	解析学	偏微分方程式、実解析学
	花園 隼人	准教授	数学科教育学	数学的対象の美的性質の教授・学習方法に関する研究
理科教育分野	高瀬 幸一	特任教授	代数学	実及びp-進リー群の表現論
	笠井 香代子	教授	化学	錯体化学、結晶化学、化学教育教材の開発
	猿渡 英之	教授	化学	環境試料の微量金属分析
	菅原 敏	教授	地学	大気科学、物質循環
	高田 淑子	教授	地学	惑星科学、天文教育
	福田 善之	教授	物理学	宇宙線物理学、素粒子物理学
	小林 恭士	准教授	生物学	植物発生生物学、分子遺伝学
	中山 慎也	准教授	理科教育学	博物館教育、防災教育、エネルギー環境教育
	西山 正吾	准教授	物理学	主に赤外線による観測天文学、宇宙物理学
技術教育分野	棟方 有宗	准教授	生物学	魚類等を対象とした行動生理・生態学的研究
	川村 寿郎	特任教授	地学	石灰岩の堆積、地域地質教材
家庭科教育分野	安藤 明伸	教授	技術科教育学	新しいテクノロジーを利用した授業作り、授業分析、教育効果測定
	亀井 文	教授	食物学	食物繊維の性質と生理作用
	菅原 正則	教授	住居学	住宅の熱・空気環境
音楽教育分野	西川 重和	教授	被服学	織物設計
	小塩 さとみ	教授	音楽学	アジアの音楽研究(日本の三味線音楽、ベトナムの伝統音楽)
	倉戸 テル	教授	器楽(ピアノ)	ピアノ曲・ピアノを含む室内楽曲の演奏
美術教育分野	原田 博之	教授	声楽・音楽科教育学	声楽・合唱作品の演奏と指導に関する研究
	虎尾 裕	教授	彫塑	彫刻(石彫)
	平垣内 清	教授	絵画	絵画(版画・メディアアート)
	安彦 文平	准教授	絵画	絵画(油画)
保健体育分野	村上 タカシ	准教授	美術科教育学	芸術普及、アートプロジェクト
	池田 晃一	教授	スポーツバイオメカニクス サッカーコーチング論	動作分析及びサッカー(球技等)のコーチング法
	木下 英俊	教授	スポーツ運動学 器械運動方法論	スポーツ運動(特に器械運動)の指導論
	佐藤 節子	教授	体育学・舞踊学	舞踊教育
	佐藤 亮平	講師	体育科教育学・体育方法	教育内容論、教材論、球技(学校体育を対象)の指導方法論
特別支援教育分野	沼倉 学	講師	体育科教育学	体育の授業づくり論、カリキュラム論
	松崎 丈	教授	聴覚障害学	聴覚・言語障害のある子どもへの教育的支援、聴覚障害学生支援
	寺本 淳志	准教授	病弱運動障害学	肢体不自由児の指導法、重度・重複障害児への教育的支援
	野崎 義和	准教授	発達障害学	遷延性意識障害児への理解と対応、知的障害者への生涯学習支援
	三科 聡子	准教授	視覚障害学	視覚障害乳幼児への教育的支援、教育相談
環境教育分野	武井 眞澄	特任准教授	視覚障害学	視覚に障害のある子どもへの教育的支援、教材・教具等の開発とその活用
	溝田 浩二	教授	環境教育	身近な自然を題材とした環境教育
国際教育分野	市瀬 智紀	教授	国際教育	日本語教育、国際理解教育、ESD
	高橋 亜紀子	教授	国際教育	日本語教育、多文化理解

Q&A

こんな疑問お持ちではありませんか？

Q1 学部生です。 教職大学院で学ぶ意義はなんですか？

A 2年間の教職大学院生活では、より教師に近い立場で学びを深め、教師としての資質・能力を大きく育てることができます。一人ひとりが探究したいテーマを2年間追究し、教師としての自分の「核」を創る時間を持つことができます。また、学校現場での経験豊富な現職教員学生と共に学べるので、指導方法の相談や情報交換などが日常的に行えます。教職大学院での学びにより、自信と余裕をもって教職生活を始められるでしょう。

Q2 宮城教育大学の教職大学院ならではの 特色や魅力はなんですか？

A 本学の教職大学院では、教職・教科専門領域の知識や教職実務経験が豊富な大学教員のもとで、教師としての理念、教科・領域における専門知識と指導方法、学校教育の内容や法令の理解、子ども理解や生徒指導、地域の協働等についての理論を学修し、それをベースに2年間で4種類の実践(学校における実習)を通して実感、体得する『理論と実践の往還』が学びの中心となります。「子どもの実態に合う指導」「理論に裏付けされた指導」等の知識や実践力に加え、教師としての自信と意欲を養うことができます。詳細は3ページをご覧ください。

Q3 卒業と同時に教員や講師に就く場合と 比べて、どのような点が有利になりますか？

A 教職大学院では、教職に関するより専門的な知識や技能を身につけられ、それをベースに繰り返し行う教育実習を通じて、教師としての指導力や実践力も向上させることができます。この2年間を通じた教育実習で得た試行錯誤および立ち直りの体験は、学部の教育実習では得られない教員としての自信を与えてくれます。

Q4 現職教員が教員としての 身分を有したまま入学する場合、 どのような履修形態になるのでしょうか？

A 在籍校に勤務しながら授業及び研究指導を受けることが出来るよう、授業日で登校した際に合わせて研究指導をするほか、必要に応じて、土日や長期休暇中に集中講義を履修します。実習は在籍校において行い、指導教員が在籍校に出向いて指導するとともに各通信手段を活用して指導します。

Q5 正規教員として就職を目指すうえで、 教員採用選考試験では何か 配慮等がありますか？

A 各自治体の教員採用選考試験では、教職大学院修了者について、その学びの成果を評価した特別の選考、一部の試験科目の免除等が広がってきています。

Q6 教員採用選考試験で合格して、 教職大学院に進学する場合、 何か配慮等がありますか？

A 多くの自治体の教員採用選考試験では、教職大学院で学ぶ2年間は採用を猶予し、修了年度の翌年度4月に採用する制度(名簿登載猶予制度)があります。つまり、名簿登載猶予制度に申請した上で合格すれば、教職大学院在学中に、再度教員採用選考試験を受験する必要はありません。なお、教職大学院1年次に在学中に合格した場合にも、同制度が適用されます。

Q7 経済的支援はありますか？

A 要件に該当する場合、入学料の免除や授業料の減免、各種機関・団体の奨学金が得られることがあります。また、本学独自の支援制度として、名簿登載猶予制度等の特例措置を利用して修学する学生を対象とした授業料免除の制度があります。詳細は21ページをご覧ください。

なお、ストレートマスターの場合は、非常勤講師をしながら学ぶ方もいます。

Q8 教職大学院を修了した後に教員に採用 された場合、初任者研修は学部卒業者と 同じように受講するのでしょうか？

A 公立学校等の正規教員として採用された場合、通常は、1年間の初任者研修を受講することが義務づけられていますが、自治体によっては免除されていることがあります(例えば山形県など)、学部卒業者とは異なる教職生活のスタートとなることもあります。

Q9 宮城教育大学の教職大学院を修了すると どのような資格等を得られるのですか？

A 教職大学院を修了すると、教職修士(専門職)の学位を得ることができます。また、所定の単位を取得した場合、専修免許状の所要資格を得ることができます。これらは、一部の私立学校での採用時の要件となっている場合や、公立学校においても将来管理職に就くための要件となっている場合もあります。

Q10 教職大学院への進学に関する 相談の機会がありますか？

A 年に数回、教職大学院に関する説明会を実施しています。随時ホームページに情報を掲載しますので、チェックしてください。

● 指導体制

本学教職大学院では、一人の院生に対して、院生各自の探究テーマに応じて、教科・領域における指導方法、各教科の教材解釈や開発等の研究、多様な教育ニーズをもつ子ども理解と支援、学校現場での豊富な指導経験や学校管理職としての経験など、高度な専門的知識・知見を持つ教員から成る「教員ユニット」を編成して、チームティーチングによる指導を行います。

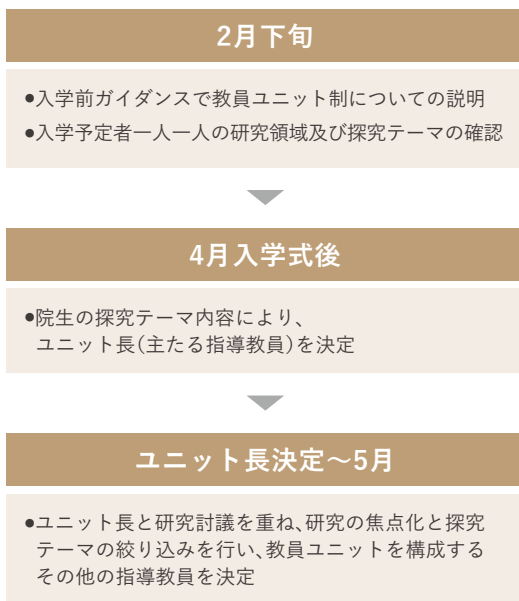
院生は、「教員ユニット」の指導・支援のもと、自身の探究テーマに基づきながら、「把握」「適応」「分析」「開発」の学習過程を通して、学修を発展的に積み重ねていくことができます。

● 1人の院生を複数の教員で指導する「教員ユニット制」

「教員ユニット」とは、主たる指導教員(ユニット長)とその他の指導教員で構成する3~4人程度の指導組織です。例えば、院生の探究テーマが教科に関する領域であれば、当該教科の教科教育担当教員がユニット長となって研究指導を行い、その教科に関連の深い分野はもちろん、側面的な学修の積み重ねについても、様々な分野の専門的知見を有する他の専任教員(研究者教員および実務家教員)、授業担当兼担教員が教員ユニットに加わり、ユニット長と連携して院生の研究を支援します。

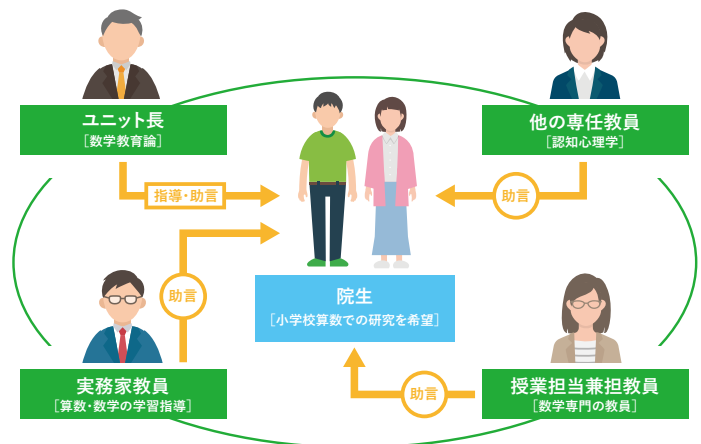
これにより、院生は、自身の探究テーマについて、多面的多角的な指導・助言を受けながら、学修を積み重ねていくことができます。

● 教員ユニット決定の流れ



※院生の探究テーマ追究の必要に応じて、ユニットのメンバーの追加・変更をすることもあります。

● 教員ユニット制における院生と指導教員とのかかわり例



教職大学院棟(5号館)



5号館カフェスペース(スペース あおば)



複数教員による「ユニット制」

● 学校における実習

- 1年次に「学校課題探究実習I」「学校課題探究実習II」「学校課題解決実習」を履修し、2年次に「臨床教育開発実習」を履修します。
- 理論系の諸授業科目との連動を常に意識しながら、「把握」⇒「適応」⇒「分析」⇒「開発」の一貫した学習過程により、理論の深化と実践の高度化を図ります。

2年次	開発	臨床教育開発実習	
		ストレートマスター学生 <ul style="list-style-type: none"> ● 自ら立案・実施した教育実践の分析を通して、得られた知見と課題に基づき、学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践をデザインし、指導力を深化させます。 ● 大学と附属学校園・学校教育創造・研修校を往還し、学校・地域の「臨床」に即した実践と研究を進めます。 	現職教員学生 <ul style="list-style-type: none"> ● 自ら立案・実施した教育実践の分析を通して、得られた知見と課題に基づき、自らが勤務する学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践をデザインし、指導力を深化させます。 ● 大学と勤務校を往還し、学校・地域が解決すべき課題の解明と解決に根ざした研究を進めます。 ● 教師の成長を支える組織のあり方を探るとともに、ミドルリーダーとして自分なりの新たな提案を試み、学修成果の地域への還元に努めます。
1年次	分析	学校課題解決実習	
		ストレートマスター学生 <ul style="list-style-type: none"> ● 立案・実施した学習指導等成果を分析し、取り組む課題を明確化します。 ● これまでの実習を通じて把握した自らの実践の課題について省察するとともに、教育的な意義や可能性について、他者との協働活動を通して考察します。 	現職教員学生 <ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムデザインと授業実践の自身の実績をふまえ、学校・地域の課題も視野に入れつつ、自らの教育実践上の課題を明確にします。 ● さらに、授業と学級づくり等に関する新任・若手教師の成長を支える組織のあり方を考え、担い手となる準備をします。
1年次	適応	学校課題探究実習II ※	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 学校課題探究実習Iの学修成果をもとに、探究テーマに関わる教科・領域等について、一つの単元全体・各自の学習指導計画を立てて授業実践を行います。 ● 自らの授業実践の結果を省察し、授業、学級経営、児童・生徒支援をどのように立案・実施すべきか、自己の教育課題を見出します。 	
		学校課題探究実習I ※	
1年次	把握	学校課題探究実習I ※	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 附属学校園や学校教育創造・研修校において、授業参観・子ども参観等により、探究テーマに即して、学習指導及び生活指導をめぐる課題や子どもの実態等を把握し、自らの教育実践の計画を立てます。 	

※現職教員学生の場合、審査により「学校課題探究実習I」「学校課題探究実習II」の履修を免除する場合があります。

<附属学校園での実習等の様子>



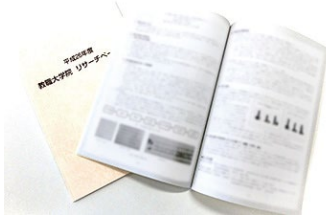
● 研究活動紹介

実践研究論文

院生それぞれの一貫した探究テーマに基づきながら、「把握」「適応」「分析」「開発」の各学修過程を通して「理論と実践の融合」を実現していきます。研究の経過を1年次中間・最終、2年次中間・最終の各報告会において発表し、他の院生及び教員と議論を通じて成果と課題を確認し、「実践研究論文」を完成させます。

主な内容

「研究の背景・目的・方法」「研究の結果・考察」「研究成果の学校教育における位置づけ・意義、応用性、期待」等



これまでの研究テーマ例

つまずきから考える四則演算の指導研究 -計算指導の体系的性と数の構造に着目して-	中学校英語におけるユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくり
「運動嫌い」・「体育嫌い」を生み出さない 小学校体育科の授業の在り方	児童が安心して学べる学校を目指した教育環境の在り方 -インクルーシブな学校・地域を目指した協働的な取組を通して-
生徒一人一人の学力と学習意欲の向上 -高等学校数学科におけるICTを活用した授業づくりを通して-	子供の成長の可視化による学校組織好循環モデル -仙台北教育モデルの利活用-
家庭科における持続可能な社会の実現を 目指した授業の検討 -エシカル消費をもとにして-	地域を支える意識を高める防災教育 -地域材の活用を通して-
小学校プログラミング教育における 教科横断的な実践例の開発	専門高校における探究的な学習を通じた キャリア教育のモデル開発 -Global(地球規模から地域)ではなくLocal(地域から世界)に-

研究成果発表会

2月上旬に行われる研究成果最終発表会は、教職大学院での研究成果を広く一般にも公開する場です。発表は、「実践研究論文」の内容をもとに、聞き手がより研究を知りたくなる視覚的な工夫や、2年間の研究の成果が伝わりやすいような構造化が求められます。発表会は1年次中間、最終、2年次中間にも行われ、学修の到達点と課題を確認します。



宮城教育大学教職大学院紀要

令和元年度より、教職大学院の研究成果を公開する『宮城教育大学教職大学院紀要』を刊行しています。理論と実践の往還を通して学校等における教育課題の解決につながる研究の成果を広く示し、大学院の教育研究のいっそうの充実を図るものです。

大学教員に加え、在籍する院生や修了生も論文を投稿することができ(教員との共著を含む)、第1号から第3号までの中で教科指導、生徒指導・進路指導、復興教育に関する院生・修了生の論文が掲載されました。

これまでの論文テーマ例 (第1号～第3号より)

【研究論文・原著論文】

幼小接続を考慮した声の表現に着目した音楽科の授業開発 —対話型鑑賞による「聴こえる美術館」の授業実践を通して—
p4cを実践する教員らから見たその効果と課題

【研究報告】

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための試み —学びの実践講座—
数学的活動を支える数学的経験と技能を与える 教師教育カリキュラムの一考察

【実践報告】

幼児の感情表現を援助する保育実践 —色を用いた感情表現活動の実践—	思考力の基盤となる創造的思考を育む 小学校中学年図画工作科指導の在り方 —「観る」力を表現に生かすデッサンの指導を通して—
学校における防災教育に係る 既存の動画教材の課題に関する一考察	オンライン型ロボットプログラミング学習の実践と可能性
中学校理科における放射線について 正しく理解を深める授業の一考察 —ドライブラブが教材を用いた授業実践を通して—	中学校における定期考査を活用した学力の経年分析



研究成果の還元 院生が研究を通して、これまで学校現場に還元してきた成果の一部をご紹介します。

大学院生による成果物

教職大学院で学ぶ主に現職教員学生(小・中学校の教員)や大学教員、国土交通省東北地方整備局の専門家が参画して、現職教員学生の勤務校において風水害に関する授業を実践し、学校での防災教育の充実に向けての取り組みの記録を中心に教員向けの手引書を作成しました。

また、GIGAスクール構想の進展を踏まえ、学校の防災教育で活用できる3分動画集を制作し、オンライン端末で視聴可能なWebページを作成し、公開しています。



「いのちを守る教員のための防災教育ポータル」
共同研究を通じて開発した教材集



宮城教育大学—国土交通省東北地方整備局
「動画で学ぶみんなの防災」



MESSAGE

在学院生・修了生メッセージ

在学院生からのメッセージ



子どもの事実と向き合う

●教職大学院2年 現職教員学生

石井 恵子 (出身大学:宮城教育大学)

「子どもの事実を子どもから学ぶ。そして、子どもに力を付ける。

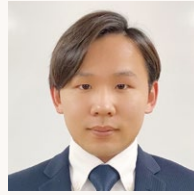
子どもから始まり、子どもに終わる。」

本大学の開学以来、希求されてきた「教育における臨床の学の創造」の理念に触れ、「子どもの事実と向き合う」という原点に立ち戻りました。教師自らが高い水準の学問や芸術に触れて自身を高めることが、子どもたちの心を磨き成長を促していくこと、魂と魂の触れ合いが子どもたちの心に響いていくことを改めて学びました。この質の高い学び直しは、何にも代えがたいものです。

また、教育現場が直面する諸課題の解決を目指して研究する中で、教職大学院の研究者や実務家の先生方から多くの知見を得ることができました。それは地域や国、地球規模の幅広い視点からの知見で、物事をあらゆる方向から捉え、考えることの大切さを学びました。時には、様々な教育機関での研修や人との出会いもあり、組織や教育について深く考えるきっかけとなりました。また、共に悩み、考え、語り合った教職大学院の仲間たちとの出会いも私の心を豊かにしてくれました。

私たち自身がたくましさやしなやかさを持って学び続けることは、子どもたちが未来の社会を自分たちの手で創っていく力に繋がると信じています。

四季折々魅せる青葉山の自然の崇高さに、子どもの成長の可能性を重ねつつ、これからも大きな夢を抱いていきたいと思っています。



教職大学院の魅力

●教職大学院2年 ストレートマスター学生

能代谷 賢治 (出身大学:宮城教育大学)

私は宮城教育大学入学時から高等学校の理科教員を目指していました。学部生の頃は、親身になってご教授くださる先生方に囲まれながら自然科学を学ぶことができました。しかし、教員として自然科学の興味深さを生徒に伝えるためには理科の専門的知識の深化だけではなく、授業実践力および教材研究力の向上が必要であると考え、宮城教育大学教職大学院へ進学しました。

宮城教育大学教職大学院では、各分野の専門的知識・知見を持つ先生方から研究の指導・助言を受けることができます。私は現在、高等学校理科におけるプログラミングの導入に向けた研究を行っています。この研究を進めるにあたっては、理科の先生方だけではなく技術科の先生からもご指導・助言をいただきました。また、授業実践では学校教育創造・研修校の先生方にもより実践的なご指導をいただき、授業実践の“トライアル・アンド・エラー”の中で改善点を明らかにすることができました。このように、多面的多角的な指導・助言を受け、教科の専門性や授業力を磨きながら自身の研究を進めることができます。さらに、学会発表や論文投稿を通して様々な先生方からご意見をいただき、自身の研究を深めることもできます。

宮城教育大学教職大学院は令和3年度から新たなスタートを切りました。この教職大学院はこれまで設置されていた修士課程と同等に、教科の専門性を高めることのできる環境です。皆さんがこの教職大学院での学びを通して、かけがえのない教員として活躍されることを願っています。

修了生からのメッセージ



青葉山で素晴らしい学びの日々を

●平成30年度修了生(現職教員学生)

●大河原町立金ヶ瀬小学校 教頭

(原稿執筆当時は宮城県気仙沼教育事務所 主幹(指導主事))

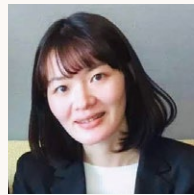
丹野 憲 (出身大学:宮城教育大学)

思いきった研究テーマに果敢に挑戦するもよし、遠くのところへ研修に出かけるもよし(同期はフィンランドへ!)、たっぷり時間をかけて子供の一挙手一投足を観察するもよし、丸一日図書館にこもって文献を探してもよし。教職大学院で過ごした2年間は、自分の思いえがく学びを日々自由に展開することができ、毎日が「わくわく感」に溢れるものでした。

また、教育委員会、教育センター、児童相談所といった機関での研修は、教職大学院ならではの専門性の高い学びに胸が高鳴りました。各種公開研究会、他県の教職大学院と連携した研究会では、宮城教育大学教職大学院の卓越した先進性やリーダーシップに、いつも在籍する喜びと誇りを感じました。

そして何より、学校現場を離れ、いつもと違った視点から改めて教育について考えることで、教員としての資質・能力はもとより、人間的な成長も果たすことができたと振り返っています。

「学び続ける教員を育てる」という研究の成果を、現在は教育事務所で各種研修会や学校訪問等の場面で活用しようと努めています。そのような営みが宮城県の児童生徒の幸せにつながることを夢見ながら、自らもアクティブラーナーとして学び続けていく所存です。



縁ありて

●令和元年度修了生(ストレートマスター学生)

●仙台市立中田小学校 教諭

大友 香奈 (出身大学:北海道教育大学)

私は学部時代に特別支援教育のゼミに所属し、多様な教育的ニーズのある子供たちに対する支援等について考えてきました。小学校の教員を目指す上で、通常学級において教師が持つべき視点は個と集団の双方であり、全ての児童にとって効果的な教育を提供するために自分ができるところを研究してみたいと思い、教職大学院への進学を決めました。

入学したばかりの頃と現在を比べると、以前よりも教育に対する考えが深まり、「本質」に向き合うことができるようになってきたと感じます。教職大学院では、教授陣や現職の先生方、ストレートマスターと校種も経験年数も異なる方々と一緒に講義を受けたり、演習をしたりします。そういった環境で過ごすうちに、自然と多様な視点で物事を観ることを意識するようになりました。また、「理論と実践の往還」を実現するにあたって、周りの先生方にアドバイスを頂きながら授業づくりに取り組みたり、実習の機会が多く保障されていたりするところも教職大学院の魅力だと思います。

この2年間の学びを目の前の子供たちに還元できるよう、常に学び続ける教師でありたいです。みなさんもきっと教職大学院で有意義な時間を過ごせると思います。

➔ 学費・奨学金

院生の経済支援としては、入学料の免除及び徴収猶予制度、授業料の免除及び徴収猶予・月割分納制度、奨学金制度があり、皆さんのキャンパスライフへの支援を行っています。

● 納入経費

大学納付金		その他の経費	
入学料 282,000円	授業料 535,800円	学生教育研究 災害傷害保険保険料 1,750円 (保険期間2年)	学研災付帯 賠償責任保険料 680円 (保険期間2年)
<small>在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。 なお、上記納付金額は予定額です。</small>			

● 学費の免除

該当する院生は選考により、次の制度の適用を受けることができます。

1. 入学料の全額または半額が免除される制度、徴収が猶予される制度。
2. 授業料の全額、半額または1/3が免除される制度、月割分納、徴収が猶予される制度。

令和3年度から教員採用候補者名簿登載猶予等の特例措置(以下「登載猶予」という。)、教育公務員特例法の規定による大学院修学休業制度等を利用して修学する学生を対象とした授業料免除制度を創設しました。

一例として、以下のものがあります。

学部卒業生等			
	入学時	1年次	2年次
	教員採用試験に合格し、2年間の登載猶予を認められた者	教員採用試験に合格し、1年間の登載猶予を認められた者	教員採用試験に合格した者
宮城県 又は 仙台市	2年間 1/3免除	2年次の 1年間 1/3免除	2年次の 後期 1/3免除
上記以外の 自治体	2年間 半額免除	2年次の 1年間 半額免除	2年次の 後期 半額免除
現職教員			
	現職教育のため宮城県以外及び仙台市以外の任命権者(自治体に限る)の命により派遣される現職教員(授業料を本人が負担する場合)	大学院修学休業制度を利用して2年間修学する者	
	派遣期間 半額免除	2年間修学する期間 半額免除	

● 奨学制度

日本学生支援機構、地方公共団体、その他の奨学財団からの各種奨学制度があります。

日本学生支援機構の奨学金は、学業等が優れ、経済的理由により修学に困難があると認められる者に対して貸与されます。奨学生には、無利子で奨学金を受ける「第一種奨学生」と有利子(年3%以内)の奨学金を受ける「第二種奨学生」の2種類があります。

「第一種奨学金」及び「第二種奨学金」は卒業(修了)後6か月を経過した後、20年以内に貸与を受けた奨学金を月賦、月賦半年賦併用等により返還することとなります。

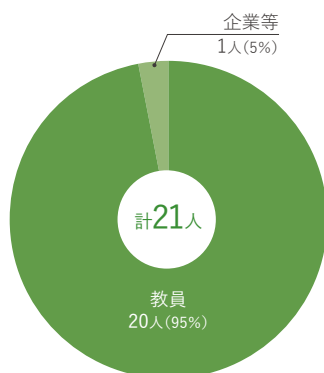
● 奨学金の種類及び貸与月額

奨学金の種類	貸与月額		備考
	自宅通学	自宅外通学	
第一種奨学金	5万円、8万8千円の中から選択		無利子
第二種奨学金	5万円、8万円、10万円、13万円、15万円の中から選択		有利子

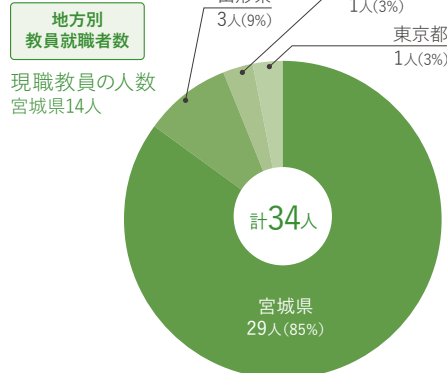
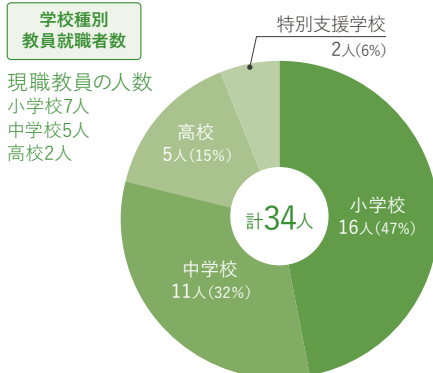
※入学月の基本月額などに増額して貸与を受ける、入学時特別増額貸与奨学金の制度がある。
(金額10万円、20万円、30万円、40万円、50万円)

➔ 令和3年度修了生の就職状況 [R4.5.1現在]

ストレートマスターの就職状況



現職教員を含む教員就職者(34人)の状況



➔ 入試実績

● 令和4年度大学院教育学研究科 専門職学位課程(教職大学院) | 入学者選抜実施結果

専攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高度教職実践専攻	52	50	47	46	41
内訳	現職職員	概ね1/3程度	12	12	12
	学部卒業生等*	概ね2/3程度	38	35	34

*学部卒業生等入学者には、協定校及び本学からの特別入試による合格者8名を含む。

➔ 専門職学位課程(教職大学院)概要

※詳細は学生募集要項をご確認ください。

標準修業年限	2年
修了要件	必要修了単位数 46単位以上 [専門高度化基盤科目(24単位)、専門高度化探究科目(8単位)、 専門高度化深化科目(14単位)]
学位	教職修士(専門職)
取得可能免許	所持している教育職員一種免許状(幼・小・中・高・特支)に対応する専修免許状
入学定員	52名 [現職教員(現職派遣教員を含む)、学部卒業生等**] ※現職1/3・学部卒2/3の割合
選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 現職教員(現職派遣教員を含む) 提出された書類及び口述試験の結果を総合して行う。 ● 学部卒業生等 提出された書類、論述試験及び口述試験の結果を総合して行う。 ● 学部卒業生等(協定校特別入試) 提出された書類及び口述試験の結果を総合して行う。 ● 学部卒業生等(内部進学者特別入試) 提出された書類及び口述試験の結果を総合して行う。

➔ 受験資格

【現職教員(現職派遣教員を含む)】

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教諭、養護教諭、栄養教諭の普通免許状(一種)のいずれかを有する者とする。
※養護教諭・栄養教諭にかかる専修免許状は取得できません。

【学部卒業生等】

幼稚園、小学校、中学校、高等学校教諭の普通免許状(一種)のいずれかを有する者とする。
(令和5年3月31日までに取得見込みを含む)

➔ 入試日程

※詳細は学生募集要項をご確認ください。

	I期	II期	III期
出願期間	令和4年9月1日(木)～9月9日(金)	令和4年11月7日(月)～11月11日(金)	令和4年12月19日(月)～12月23日(金)
試験日程	令和4年10月1日(土)	令和4年12月10日(土)	令和5年2月4日(土)
合格発表	令和4年10月6日(木)	令和4年12月15日(木)	令和5年2月9日(木)

➡ 教員採用試験対策

教員採用試験対策は、キャリアサポートセンターが万全の体制でサポートします。就職相談・面接指導・論文添削等を随時受け付けていますのでご利用ください。学年に関係なくどなたでも利用できます。



元小・中・高等学校長の経験を持つキャリアサポスタッフ(就職支援アドバイザー)

➡ 各種制度

現職教員の方へ

■ 長期履修制度

本学では職業を有している等の事情により、標準修業年限(2年)では大学院の教育課程の履修が困難な院生を対象として、2年間の授業料で3年又は4年にわたり、計画的に教育課程を履修し修了できる長期履修制度を設けています。授業料等については下記にお問い合わせください。

長期履修制度に関する問い合わせ先 | 宮城教育大学教務課 TEL:(022)214-3331

■ 教育訓練給付制度

本学の大学院研究科専門職学位課程高度教職実践専攻(教職大学院)は、平成28年度から、厚生労働省による専門実践教育訓練給付金の対象となる講座に指定されました。

詳細については、厚生労働省ホームページにてご確認ください。

右のQRから
厚生労働省の
HPへアクセス
できます。



学部卒業生等の方へ

■ 教員採用試験合格者に対する猶予制度

教員採用試験に合格した方には、教職大学院の修了まで採用が猶予される制度を設けている教育委員会があります(東北地域では、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、仙台市、山形県、福島県の各教育委員会で行われています)。

● 宮城県・仙台市教員採用試験受験者

大学院進学予定者で、「名簿登録猶予願い」を指定の期限までに提出した者(仙台市は電子申請時の必要項目選択も行う)は、採用試験に合格した場合、大学院修了まで採用候補者名簿登録が猶予されます(合格した出願区分の校種・教科等の専修免許状取得が条件)。

● 岩手県教員採用試験受験者

大学院進学予定者で、教員採用試験に合格した者は、「名簿登録期間延長願」及び「大学院合格通知書」又は「大学院在籍証明書」を指定の期限までに提出した場合、最大2年間名簿登録期間を延長することができます(ただし、合格した出願区分の校種・教科等の専修免許状取得が条件)。

他の地域でも多くの自治体が制度を設けています。制度の有無及び制度の詳細につきましては、各教育委員会へのお問い合わせ、または各自治体の教員採用選考の実施要項等をご覧ください(事前に採用猶予の申請を各自治体が定める日までにすることにご留意ください)。

■ 各教育委員会による教職大学院修了(予定)者への特例措置の例

教職大学院を修了した教員に対する評価が高まっており、以下のような取り組みを行っている自治体もあります。

- 教員採用選考での特別選考や試験内容の一部免除
- 教員採用選考での教職大学院が推薦した者の試験内容の一部免除
- 採用後の初任者研修での一部免除



➔ 公式SNS

● Twitter



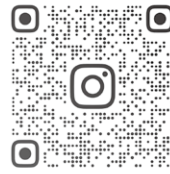
@koho_mue



● Instagram



@mue_official



● Facebook



➔ 教職大学院紹介動画 YouTube

宮城教育大学教職大学院では、より広く本学の教職大学院について知っていただくことを目的に、紹介動画を作成しました。紹介動画の他にも、研究成果発表会の様子や、大学院の概要説明動画などを配信しています。ぜひ動画をご覧のうえ、教職大学院に関心を持っていただけたら幸いです。



宮城教育大学

MUEchannel

チャンネル登録

宮城教育大学

下記QRからチャンネルへアクセスできます。



宮城教育大学の公式YouTubeチャンネル。本学に関する様々なコンテンツを配信しています。



在学大学院生(撮影当時)によるインタビュー動画

➔ ACCESS [アクセス]

● 大学・附属学校までの交通機関

宮城教育大学まで(青葉山地区)

■ 地下鉄東西線

- 「仙台」駅から「八木山動物公園」行き乗車、「青葉山」駅下車(乗車時間約9分)
「青葉山」駅「北1」出口から大学正門まで徒歩約7分

■ 市営バス

- 地下鉄東西線「青葉山」駅から「宮教大・青葉台」行き乗車、「宮教大前」下車(乗車時間約2分)

附属学校まで(上杉地区)

- 仙台駅前仙台ロフト前⑰⑱⑲番乗り場から市営バス「旭ヶ丘駅」「鶴ヶ谷七丁目」「東仙台営業所」行き乗車、「附属小学校前」下車(所要時間約20分)
- JR仙山線「東照宮」「北仙台」駅から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「北四番丁」「北仙台」駅から徒歩約10分



国立大学法人
宮城教育大学

[お問合せ先] 宮城教育大学入試課入試企画広報係

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 tel.022-214-3713

URL <https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/kyoushoku>



このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ [VEGETABLE OIL INK] で印刷しております。